

神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。それでも、私たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中にある人たちを慰めることができます。

コリント人への手紙第二 1章4節

妻 久仁子の召天から2年が経ちます。この間、多くの方に「心配いただき、苦しみと悲しみを共にしていただきました。どれほど慰められ支えていただいているかを思うとただただ感謝です。

教会では次週10月3日に講演会「グリーフケア」を行います。悲しみを経験するとき、私たちはグリーフ（深い悲しみ・悲嘆）に対して適切なケアを受けることで前に進むことができます。本日と次回の礼拝説教ではそれにちなんで慰めや喪失について聖書から考えたいと思っています。

私たちの人生には多くの悲しみや苦しみが

があります。時には押し潰されてしまい思うに思えるほど大きな課題を抱えることもあります。ある人は、信仰があれば悪いことは起こらないのではないかと疑問に思ったり、自分が不信仰だから苦しむのだと自分を責めることがあります。それは御利益的な考えで聖書が示すものと異なります。

イエス様が私たちのために十字架という苦難を負われたように、キリスト者の生涯には苦難が伴います。それは神の栄光を現すためのものもあれば、私たちを罪からきよめるためのものなど意味は様々です。

ただ共通して言えることは、神は私たち

が苦しみに遭うときに慰めてくださるということです。

「慰め」（パラクレシス）は、聖霊を表す「助け主」（パラクレートス）と同じ言葉に由来し「助けるために側へ呼び寄せること」を意味します。気落ちし、倒れそうになっている者を下から支えるのが「助け主」であり「慰めの神」（3）なのです。その慰めは、相手の苦痛をやわらげるという一般的な意味よりも力強い意味があります。神の慰めは苦難に耐え抜く力と勇気を私たちに与えてくれるのです。

神の慰めを経験する人は、苦しみの中にある他の人を慰めることができるようになります。聖書は語っています（4）。今の時代は多くの人が傷ついています。私たちが神の慰めを経験し、この時代に神の慰めを示す者とされることを願います。（泰）

■講演会「グリーンフケア」

日時 10月3日(日)

14時～15時半

講師 有田モト子師

臨床心理士、横浜いのちの電話ス
ーパーバイザー

・インターネットから視聴ください
(聖日礼拝と同じ要領です)

・希望者は礼拝堂での出席が可能です。
教会まで電話・FAXでお申し込みく
ださい。(人数制限あり)

・参考図書(絶版)をプリントでお分けし
ています。教会までご連絡ください。

・フォローアップ対象者にもご案内してい
ます。主の慰めが届けられるようにお祈
りください。

【消息 報告】

・林眞光修養生 本日は横浜シオンで礼拝
説教です。10月から神学院生活が再開し
ます。今後の学びと訓練の上に祝福をお祈
りください。

・霊修会報告 初めてのオンライン形式で
の開催でした。礼拝と2回の聖会で語られ
た説教は気づきと励ましに満ちていました。
講師の岩上先生の尊いご奉仕に感謝です。
また、沼津の方々をはじめ奉仕を担われた
兄弟にも感謝です。集まることはできませ
んでしたが、一つのみことばを分かち合う
中に神様の恵みがあつたことを感謝します。

・先週は敬老の日に合わせて教会でも高齢
者にプレゼントを贈りました。第1礼拝と
第2礼拝の報告時には対象者を覚えて荻野
牧師が敬老の祝福を祈りました。後日、数
名の方から感謝と近況のご連絡をいただき
ました。